

植生史研究関連文献リスト1989年

- 千野裕道. 1989. 理学部7号館地点出土木製品および材の樹種同定. 「東京大学本郷構内の遺跡理学部7号館地点(東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1)」, 461-467, 図版86~93.
- 17世紀後半から19世紀前半の井戸跡・地下式土坑などから発見された木器・板材片・炭化材の樹種同定. 針葉樹とくにヒノキ属が多い. 広葉樹ではクヌギ類・コナラ類が多くすべて炭化材だった.
- 大丸裕武・五十嵐八枝子・中村俊夫・平松和彦・宮城豊彦. 1989. 北海道北部風連・剣淵地域の段丘堆積物の¹⁴C年代と花粉分析資料. 北海道地理, No.63:1-7.
- 北海道名寄～和寒にかけての盆地底に分布する段丘堆積物を, 野外調査と空中写真による地形面区分・放射性炭素年代・花粉分析結果をもとにして編年する.
- 遠藤邦彦・小杉正人・松下まり子・宮地直道・菱田 量・高野 司. 1989. 千葉県古流山湾周辺域における完新世の環境変遷史とその意義. 第四紀研究, 28(2):61-77.
- 千葉県坂川低地の沖積層のテフラ・放射性炭素年代値に基づく時間層序区分を行い, 砂粒組成分析・貝類分析・珪藻分析・花粉分析を加え, 完新世の環境変動史を復原, 環境変動の連動性を示唆する. 植生変遷史上, 4500年前はアカガシ亜属主体の照葉樹林の分布拡大期, 3500年前はスギ属などの分布拡大開始期だった.
- 藤 則雄. 1989. 米泉遺跡の花粉学的研究. 「金沢市米泉遺跡」, 251-262. 石川県立埋蔵文化財センター.
- 縄文時代後・晩期を中心とする金沢市米泉遺跡の花粉分析結果. 縄文時代の層位は, 小型イネ科-ハンノキ属-ヤナギ属-スイレン科-スギ属-タブノキ属で代表される.
- Furutani, M. 1989. Stratigraphical subdivision and pollen zonation of the middle and upper Pleistocene in the coastal area of Osaka bay, Japan. Jour. Geosci. Osaka City Univ., 32:91-121.
- 大阪湾を取り囲む陸域と関西新空港予定地の海域におけるポーリングコア試料を比較し, 層序を検討した. 花粉分析結果を詳細に検討している.
- 長谷山隆博. 1989. 香川6遺跡出土の土器底部にみられた植物圧痕. PROJECT SEEDS NEWS (北大文学部吉崎研発行), No.2:5.
- 留萌管内苫前町の擦文時代後半の土器に, ササの葉脈とイネ科栽培植物と思われる小穂圧痕がある.
- 畑中健一. 1989. 大分県大野町代ノ原ゾウ化石包含層の花粉化石群集. 「大分県大野町代ノ原ゾウ化石産出地の地質と植物化石」(稲田孝司著『哺乳動物化石の産状と旧石器文化』付編), 235-239, 図版19~20. 岡山大学.
- 後期更新世の代ノ原層中のナウマンゾウ化石を包含するレンズ状に堆積した層厚200cmの粘土層の花粉化石群集は, トウヒ属とイネ科の圧倒的優占によって特徴づけられる.
- 畑中健一. 1989. 下堀切遺跡堆積物の花粉分析. 「下堀切遺跡II-熊本県八代市豊原下町所在の遺跡調査-」, 52-55. 八代市教育委員会.
- 弥生時代後期の堆積物を中心とした花粉分析. 下位はアカガシ亜属とシイノキ属が優占する. 上位ではイネ花粉やマツ属の増加がみられるので水稲耕作と自然林の破壊が推定された.
- 林 昭三. 1989. 黒河西山遺跡出土木炭の樹種. 「黒河西山遺跡発掘調査報告」, 15-22. 小杉町教育委員会.
- 奈良時代の炭窯などから出土した木炭227点の樹種同定. 針葉樹はモミ1種, 広葉樹はすべて温帯・暖帯に分布する樹種でクリ・サクラ属・ヤマグワ・ミズキ・ハンノキ・モクレン属・バラ科・カエデ属・ヤナギ属など20種検出された. 炭窯の周辺に生育していた木を伐採し炭材としたと推察してい

る。

堀口萬吉. 1989. 袋低地遺跡の自然科学調査の総括. 「袋低地遺跡-自然科学編2-」, 247-270. 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社.

1988年発行の「自然科学編1」に掲載された多様な植物化石分析と、「自然科学編2」に掲載された貝塚貝層の分析などを総合し、東京都北区にある袋低地遺跡の、主に完新世以降の古環境変遷などについて総括している。

細野 衛・佐瀬 隆. 1989. 利根川沖積低地下に埋没した小松古墳の基盤について-土壌学的手法による説明-. 第四紀研究, 28(2):79-93.

植物珪酸体分析あり.

藤田和夫・前田保夫・吉田久昭. 1989. 神戸の地質・地形と自然史. 「新修神戸市史歴史編I」, 149-290.

神戸の自然史と化石記録を、地層と化石が語る自然の歴史・日本列島誕生期の神戸層群・人類出現期の神戸の自然・古大坂湾の拡大と明石海峡の誕生・最終間氷期から現在の自然へ、の5節で解説した。

五十嵐八枝子. 1989. 南サハリンの森林 北海道・氷期の森林および他の北方林との比較. 北方林業, 41(2):36-41.

サハリンの森林を紹介し、最終氷期後期の石狩低地帯以東北の地域では、サハリンに現在見られると同じ湿地林が復原されているとした。中国東北部・東シベリア・アラスカ内陸部の森林も簡単に紹介する。

五十嵐八枝子・山田 治・松下勝秀. 1989. 札幌市北部新琴似町における埋没泥炭の¹⁴C年代-日本の第四紀層の¹⁴C年代(171)-. 地球科学, 43(3):186-188.

石狩海岸平野地下、全長32mのボーリング・コアの深度26.85~27.7mのクロボク状腐植土の年代測定結果は、60300(+15000, -4900) years B.P. だった。18層準の花粉分析の簡単な報告がある。

石田 仁・中堀謙二. 1989. 愛知県作手村大野原湿原の花粉分析-過去二万数千年間の花粉群集変遷-. 「大野原湿原研究会報告集I」, 14-19. 愛知県南設楽郡作手村教育委員会.

アカホヤ火山灰・U-0ki火山灰、始良Tn火山灰を挟む泥炭層の花粉分析。花粉群集の変遷から6つの時代を設定する。

五十川伸矢・浜崎一志・伊東隆夫. 1989. 京都大学病院構内AJ18区・AJ19区の発掘調査井戸用材の樹種. 「京都大学病院構内調査研究年報1986年度 第I部 1986年度京都大学構内遺跡発掘調査報告」, 33-34, 図版9~11.

10から20世紀の井戸13基の用材樹種同定。ヒノキ18点・スギ9点・モミ1点・コウヤマキ1点で針葉樹の利用率が高い。

伊藤隆彦・森 勇一. 1989. 町田遺跡産の大型植物遺体. 「町田遺跡(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第9集)」, 58-59, 図版61. 愛知県埋蔵文化財センター.

縄文時代中期の泥炭質シルト層からの大量のエゴノキ、古墳時代~平安時代と推定される堆積物からのモモ・センダン・イネ・カンガレイの産出。

伊東隆夫. 1989. 四箇遺跡群23次調査河川出土木材の樹種. 「四箇遺跡群-第23次調査報告書-(福岡市埋蔵文化財調査報告書第196集)」, 35-38, 図版17~20. 福岡市教育委員会.

弥生時代前期と古墳時代後期の堰に使用されていた杭と板材を中心とする木製品34点の樹種が報告されている。杭材の利用樹種は、針葉樹はイヌガヤ1種で、広葉樹はタブノキが多用されクリ・シイノキ・カシ・クヌギ類・ツバキ・サカキ・イスノキなどである。この結果は他の遺跡での杭材の利用樹種と同傾向である。トベラとイスノキの利用は珍しく九州地方の植生と関係している。

岩内明子・長谷義隆. 1989. 中・北部九州後期新生代の植生と古環境-その4 大山・杖立地域(下部更新統)-. 地質学雑誌, 95(1):63-75.

中部九州筑後川流域の杖立層と大山層(下部更新統)の花粉分析と大型植物化石の検討。杖立層に

は4花粉帯が認識され、大山層ではその最上位の花粉帯が引き続く。杖立層堆積時には落葉広葉樹主体の植生から、ハリモミ主体の針葉樹林が優勢となり、再び落葉広葉樹が優勢となった。その後ハリモミ・ツガなどの針葉樹が落葉樹に伴う。大山層堆積時には安定して落葉広葉樹林が形成されていたが、2度の軽石流により一部が破壊されコナラの二次林が形成されていた。

岩内明子・長谷義隆. 1989. 熊本県上益城郡益城町津森層の花粉分析. 熊本大学教養部紀要自然科学編, No.24:103-110.

津森層の下部の堆積時期には、トウヒ属が著しく優勢であり、それにマツ属(複維管束亜属)、モミ属、ツガ属を伴う針葉樹林が発達していた。さらに、落葉広葉樹がやや広がった時期や、スギ科がやや広がった時期がある。

亀山徳彦. 1989. 大分市東部丹生台地の上部更新統からの新しい化石産出層の発見. 地球科学, 43:112-115.

低位段丘面をつくる延命寺砂礫層から冷温帯下部～暖温帯上部を示す花粉化石群を検出する。花粉化石群中にはフウ属がふくまれているが、誘導化石である可能性もあるとした。

叶内敦子・田原 豊・中村 純・杉原重夫. 1989. 静岡県伊東市一碧湖(沼地)におけるボーリング・コアの層序と花粉分析. 第四紀研究, 28(1):27-34.

示標テフラである始良Tn火山灰・カワゴ平軽石および放射性炭素年代に基づいた層序と、最終氷期後半以降の花粉分析。6花粉帯に分帯する。最終氷期後半からスギ属が多く出現する。

金原正明. 1989. 上之宮遺跡第3次調査の植物微遺体。「奈良県桜井市阿部丘陵遺跡群(桜井市南部特定土地区画整理事業にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書)」, 151-158. 桜井市教育委員会。

6世紀後半の堆積物を主とする、花粉と珪質微遺体(プラントオパールと珪藻)の分析。遺跡周辺には比較的乾燥した開けた環境があり、周辺地域はカシ類を主とする照葉樹とスギ・ニヨウマツ類・モミ属・ツガ属などの針葉樹が優勢な森林植生が分布する。

金原正明. 1989. 天理市和爾・森本遺跡の花粉分析。「和爾・森本遺跡II(奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第58冊)」(奈良県立橿原考古学研究所編), 166-171. 奈良県教育委員会。

古墳時代中期前半の井戸内堆積物・古墳時代(庄内)の土坑(本当は土偏に廣)内堆積物・弥生時代の井戸内堆積物の花粉分析および随伴する種子を同定。周辺植生はカシ類に代表される照葉樹林で、人里や畑地を好む二次的な草本類が多く、常畑による畑作の可能性が示唆される。

金原正明. 1989. 奉行所濠(N区・S区)・東西溝の花粉分析。「奈良女子大構内遺跡発掘調査概報IV」(奈良女子大学埋蔵文化財発掘調査会編), 33-38, pl.5. 奈良女子大学。

遺跡の濠内の堆積物の花粉分析。

金原正明・泉 武. 1989. 花粉分析からみた奈良盆地東部の古墳時代植生の検討. 考古学と自然科学, No.21:93-101.

奈良盆地東辺の小墓古墳・星塚古墳・布留遺跡・前栽遺跡・舞庄遺跡の5～6世紀の古墳時代の堆積物の花粉分析から、アカガシ亜属を種とする照葉樹林に、人為的な影響による二葉松類・エノキ属・ムクノキ属・クマシデ属・アサダ属の二次林が部分的に存在し、イネ科・ヨモギ属・カヤツリグサ科などの草本類の多い環境が広がりつつあったとする。

金原正明・粉川昭平. 1989. 上之宮遺跡第5次調査出土植物性遺物の検討。「奈良県桜井市阿部丘陵遺跡群(桜井市南部特定土地区画整理事業にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書)」, 159-172, 図版E～N. 桜井市教育委員会。

6世紀後半から7世紀前半の木材・種実・花粉の検討。加工痕がある木材の樹種はヒノキを主としながらもニヨウマツ類・コウヤマキもある。種実では食用の果樹が含まれ、ナツメは日本最古の出土例である。花粉ではペニバナがみいだされた。

金原正明・太田三喜. 1989. 自然科学的調査。「奈良県天理市布留遺跡三島(木寺)・豊田(三反田)地区発掘調査報告(考古学調査研究中間報告16)」, 30-38, 図版28～30. 埋蔵文化財天理教調査団。

縄文晩期前半と近世以降の花粉分析、および貯蔵穴中などから出土した自然木(アカガシ亜属)。

大型植物遺体（ヒョウタン・アカメガシワ・アカガシ垂属・コナラ垂属・オニグルミ）の同定。奈良盆地の縄文晩期遺跡の花粉組成を比較し、大河川沿いの不安定な氾濫原を除き、盆地低部まで照葉樹林に覆われていたとする。

笠原安夫・藤沢 浅. 1989. 中尾城跡から出土した炭化種実の同定。「中尾城跡—近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書XI—（兵庫県文化財調査報告書第67冊）」, 7-11, 図版1~20. 兵庫県教育委員会.

三田市下相野, 中尾城跡（戦国時代中から後期; 1500-1570年頃）出土の炭化種実の同定。種類は少ないが, 4万以上の粒数が分析され, このうち長粒コメが10%以上ある。これは大唐米のインド型赤米らしく, その栽培があった。同時にソバ・ムギ・ヒエ・アワ・シソ・エゴマ・シコクビエ?などが検出され, コメ以外にも畑作物の栽培がなされていたことが推定された。これが小山城の兵糧食だった。

笠原安夫・藤沢 浅. 1989. 花鳥山遺跡出土の炭化種実塊ならびに微小種子の同定。「花鳥山遺跡・水呑場北遺跡」, 129-136, 図版39~52.

山梨県の縄文時代前期からの炭化エゴマ種実が塊で産出。ならびにアブラナ類などの産出。

古環境研究所. 1989. プラント・オパール。「練馬区弁天池低湿地遺跡の調査」, 133-143. 東京都住宅局・練馬区遺跡調査会.

分析結果より, 平安時代とされる地層の時期より稲作が開始され, 「鎌倉~江戸時代」には調査区の全域で稲作が行なわれていたと推定した。

古環境研究所. 1989. プラントオパール分析調査報告。「川西市栄根遺跡—第19次発掘調査報告—」, 143-160. 川西市遺跡調査会.

川西市栄根遺跡の古墳時代前・中期層から検出された水田跡とみられる畦畔状遺構とその他の層のプラントオパール分析。古墳時代前・中期に水田耕作が開始され, 稲粃の生産総量の推計から水田は約30年間にわたって使用されたものと推定された。

古環境研究所. 1989. プラントオパール分析調査報告。「神戸市須磨区或町遺跡第一次発掘調査概報」, 103-110. 神戸市教育委員会.

兵庫県神戸市六甲山南麓の或町遺跡の弥生時代前期後半以前のの水田址を, プラントオパール分析によって確認した。生産量の推定から水田稲作は30年間続けられ, その後何らかの原因で放棄されたとする。

粉川昭平. 1989. 大分県大野町代ノ原の種子化石。「大分県大野町代ノ原ゾウ化石産出地の地質と植物化石」(稲田孝司著『哺乳動物化石の産状と旧石器文化』付編), 225-229. 岡山大学.

後期更新世の代ノ原層から出土した大型植物化石の研究。ヒメバラモミをふくむトウヒ属・キハダ・ハリギリと, トリゲモ属・アギナシ属などの水草が出土した。

粉川昭平. 1989. 下堀切遺跡の大型種子。「下堀切遺跡II—熊本県八代市豊原下町所在の遺跡調査—」, 56-58. 八代市教育委員会.

弥生時代後期の大型植物化石。近傍にはイチイガシ?, シリブカガシ?, クスノキ, ヤマモモ, ホルトノキ, ミミズバイなどの照葉樹林があったと推定された。カヤ, イヌガヤ, オニグルミなども産出している。

此松昌彦. 1989. 北講武氏元遺跡の花粉分析。「北講武氏元遺跡(講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書4)」, 37-41. 島根県鹿島町教育委員会.

島根県八束郡鹿島町講武盆地北方の縄文時代晩期から古代までの水路跡, 古代・中世の水田跡の堆積物の花粉分析。2ヶ所の花粉分析からそれぞれ花粉帯を設定し周辺を議論する。

前田保夫. 1989. 最終氷期における兵庫県丹波地方の植生史。第四紀研究, 27(4):229-232.

兵庫県水上郡春日・七日市遺跡の花粉化石群と多紀郡板井寺ヶ谷遺跡の植物化石群から, 5~2万年前の丹波地方の森林変遷史を編む。5~4万年前の温帯性針葉樹の優勢な針広混交林・4~3万年前の温帯性針広混交林・3~2.5万年前の温帯性落葉樹の優勢な針広混交林・2.5~2万年前の温帯性

針葉樹の優勢な針広混交林が復原された。

前田保夫・中井信之・松本英二・中村俊夫・楠 聡・松島義章・佐藤裕司・松原彰子・熊野 茂・黒見充宏・額田雅裕・青木哲哉・古田 昇・小橋拓司・松井順太郎・河原典史・山下博樹。1989。完新世における山陰海岸東部気比低地（兵庫県豊岡市）の古環境。立命館地理学, No.1: 1-19。

気比低地の完新世層（放射性炭素年代約8000年以降）の花粉分析。約2000年前まで6000年にわたってはスギが優占する。8000-7000年前にはスギ・コナラ属コナラ亜属・ブナ属・モミ属・マツ属が森林を構成し、その後アカガシ亜属・シイ属が急増し、5000年前を境にコナラ亜属は減少傾向をとり始める。表層でマツ属の急増とともにソバが検出され、人間の生活活動による植生変化が認められる。

松田隆嗣。1989。高保木製鉄遺跡出土炭化材の樹種について。「兵庫県栗原千種町西河内高保木製鉄遺跡」, 38-39, 図版16~17。千種町教育委員会。

中世の高保木製鉄遺跡出土の炭化材の樹種はナラ類・クリ・ブナ・サクラ類・広葉樹の5種だった。

松下まり子。1989。御前崎榛原町周辺の後氷期における植生変遷史。日生態会誌, 39:183-188。

花粉化石群集の変化から落葉広葉樹林期と照葉樹林期の2つの森林期を設定する。照葉樹林の中では、シイ林が7500年前に成立し6000年前頃にカシ類やヤマモモを伴う安定した極相林となり約3000年前まで反映する。古地理と堆積環境の変化との対応、古海況との関わりについて議論する。

松谷暁子。1989。馬場遺跡と小中台（2）遺跡の植物種子・圧痕・灰像について。「千葉県小中台（2）遺跡・新堀込遺跡・馬場遺跡（千葉県文化財センター調査報告第159集, 千葉都市計画道路3・4・43号磯辺・茂呂町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3）」, 202-204, 図版65~68。

松谷暁子。1989。米泉遺跡出土植物遺残。「金沢市米泉遺跡」, 297-304。石川県立埋蔵文化財センター。縄文時代後・晩期のトチ・クリ塚からアサ、シソ属（エゴマ・シソ）、マメ粒が産出した。

南木睦彦。1989。久江サザミヤシキ遺跡の大型植物化石および石川県中世遺跡の大型植物化石の比較。「石川県鹿島郡鹿島町水白モンショ遺跡」, 125-132, 図版65。石川県立埋蔵文化財センター。

12世紀後半の井戸からイネ、アワ、エゴマ近似種、シソ近似種などの栽培植物が産出。石川県の他の中世の遺跡との比較もしている。

南木睦彦。1989。水白モンショ遺跡の大型植物化石。「石川県鹿島郡鹿島町水白モンショ遺跡」, 114-118, 図版60~61。石川県立埋蔵文化財センター。

12世紀末から13世紀初頭の土坑などから、イネ、ゴマ、アサ、エゴマ近似種、ナス、メロン仲間、オオムギ、ソバ属、ナタネ属Aといった栽培植物が産出。

南木睦彦。1989。第四紀植物化石の進化研究上の重要性。流通科学大学論集人文・自然編, 2(1):65-85。

日本を中心に、現生種とわずかに形態的な差異があると報告されている13分類群の第四紀化石植物を紹介し、その生物学上の意義について論じている。

南木睦彦。1989。米泉遺跡の大型植物化石。「金沢市米泉遺跡」, 279-296。石川県立埋蔵文化財センター

縄文時代後期以前はクリ、イタヤカエデ、トチノキなどの落葉広葉樹が生育していた。縄文時代後・晩期の河道堆積物中にはクリ・トチの果皮が密集する塚があり、また栽培植物であるエゴマ近似種、シソ近似種、アサが産出した。

南木睦彦。1989。日本の中・後期更新世の針葉樹化石と大型植物化石群集の三つの類型。植生史研究, No.4: 19-31。

日本の中・後期更新世の大型植物化石群を冷温帯から暖温帯性の広葉樹を豊富に含むA型、温帯針葉樹が卓越するB型、冷温帯上部ないし亜寒帯の針葉樹が卓越するC型に区分した。三木（1948）の「植物遺体層」をこの類型区分によって評価し、関東地方の最終間氷期以降の植物化石の変遷との比較から、3つの類型が氷期・間氷期変動に対応している可能性を示唆する。

三野紀雄。1989。K441遺跡北33条地点出土の木材サンプルの樹種同定について。「K441遺跡北33条地点N12遺跡（札幌市文化財調査報告書XXXVI）」, 58。札幌市教育委員会。

光谷拓実. 1989. 年輪年代測定法による小犬丸遺跡出土木製品の年代推定について。「龍野市小犬丸遺跡 II, 県道竜野相生線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(兵庫県文化財調査報告書第66冊)」、89-91. 兵庫県教育委員会。

龍野市小犬丸遺跡出土のヒノキの木皿と曲物容器底板の2点の木製品の年代を年輪年代測定法により求めた。ヒノキの暦年標準パターンと木製品の年輪変動パターンがよく一致し、残存最外年輪測定年代はそれぞれ831年、709年となり、当遺跡の年代が8~9世紀とされる所見に一致した。

Miyoshi, N. 1989. Vegetational history of the Hosoiike Moor in the Chugoku Mountains, Western Japan during the Late Pleistocene and Holocene. *Jap. J. Palynol.*, 35(2):27-42.

中国山地東部(岡山県苫田郡)の標高970mに位置する山頂湿原, 細池湿原の後期更新世以降の過去40000年間の植生変遷史を始良Tn・阪手・鬼界アカホヤ火山灰を挟むボーリングコアの花粉分析から議論する。5つの花粉帯を設定し、Tsukada(1963)の日本列島の花粉帯と対比し植生と気候の変遷を示す。

三好教夫. 1989. 徳佐盆地(山口県)における後期更新世の花粉分析(予報)。第四紀研究, 28(1):41-48.

更新統岡砂礫層下部と徳佐層のボーリング試料の花粉分析。宇生賀盆地の結果をあわせ、最終氷期の花粉帯を上位よりL, P-I~VIに区分する。Lを晩氷期, P-VIを最終間氷期にあてる。

Momohara, A. 1989. Pliocene *Carya* Nuts (Juglandaceae) from the Osaka Group, Southwest Japan. *J. Phytogeogr. & Taxon.*, 37:107-112.

鮮新統大阪層群最下部層から産出した*Carya striata* MIKI(クルミ科)の堅果化石と産出層準の大型植物化石群を記載し、他の産出例もあわせて日本での中新世から鮮新世のカリア属が中国の現生種と類似した温暖な気候下で生育していたと推定する。

百原 新. 1989. 鮮新・前期更新世の大型植物化石相。植生史研究, No.4:11-18.

大型植物化石の記録を、大阪層群とその周辺の地層, 魚沼層群について概観し、植物相の違いを議論する。形態変化・生態的性質の変化について、クルミ属・温帯針葉樹を例にあげて説明する。

守田益宗. 1989. 花粉分析。「富沢・泉崎浦・山口遺跡」, 63. 仙台市教育委員会。

仙台市の富沢遺跡第43次発掘で出土した最終氷期の堆積物の花粉分析。トウヒ属とマツ属・カバノキ属が優占する。

那須孝悌. 1989. 活動の舞台: 概論。「弥生文化の研究1 弥生人とその環境」, 119-130. 雄山閣。

弥生時代の自然環境を地層と地形, 気候, 植生, 昆虫, 脊椎動物に分けてそれぞれ概説する。さらに、大阪の河内平野において人間とそれぞれの自然環境の構成要素が互いにどのように関連し合いながら変遷したのかを時代をおって議論する。

能城修一. 1989. 大分県大野町代ノ原から出土した木材化石の樹種。「大分県大野町代ノ原ゾウ化石産出地の地質と植物化石」(稲田孝司著『哺乳動物化石の産状と旧石器文化』付編), 231-233, 函版16~18. 岡山大学。

後期更新世の代ノ原層から出土した木材化石の研究。ヒメバラモミが優占する。

Noshiro, S. & Suzuki, M. 1989. Forest reconstruction from fossil wood assemblages in prehistory. *Quat. Res. (Tokyo)*, 27(4):313-329.

縄文時代後・晩期の泥炭層中の木材化石の平面分布を明らかにし、堆積過程のことなる2つのタイプの木材化石群集それぞれの生育範囲を推定し、植生を復原した例を紹介している。

能城修一・鈴木三男. 1989. 掘立柱建物産出柱材の樹種。「北島遺跡(II)」, 148-149. 埼玉県埋蔵文化財調査事業団。

埼玉県熊谷市の奈良時代の掘立柱建物の柱根5点の樹種同定。

能城修一・鈴木三男. 1989. 浜野川遺跡群出土木材の樹種・統報。「千葉市浜野川神門遺跡」, 128-141, 函版45~51. 千葉県文化財センター。

木材249点の同定結果を記載し、前報(1988)の結果と合わせ、関東内陸部の縄文時代から古代に

- かけての古植生と人間による木材利用について考察している。スギ・ヒノキ・モミ属・カヤ・イヌガヤなどの針葉樹の比率が高いのが特徴である。
- 能城修一・鈴木三男。1989。木材化石。「練馬区弁天池低湿地遺跡の調査」, 103-132, 図版18~54。東京都住宅局・練馬区遺跡調査会。
- 縄文時代後期と、弥生時代から近世にかけての木材化石群の報告。縄文時代後期の自然木ではトネリコ属とコナラ属コナラ節が優占する。マツ属単維管束亜属やトウヒ属がわずかながら伴う。
- 能城修一・鈴木三男。1989。川口市赤山陣屋跡遺跡出土加工木の樹種。「赤山・本文編・第2分冊」, 345-426。川口市遺跡調査会。
- 縄文時代後・晩期の木製品の樹種同定。クリ, コナラ属コナラ節, トネリコ属が多用される。
- 能城修一・鈴木三男。1989。米泉遺跡出土木材の樹種。「金沢市米泉遺跡」, 263-278。石川県立埋蔵文化財センター。
- 縄文時代後・晩期, 弥生時代, それ以降の木材140点の分析。縄文時代晩期の自然木はクリ, オニグルミなどの落葉広葉樹が多く, イヌガヤなどの針葉樹をとまなう。加工木では, 自然木では産出しないヤブツバキやスギも伴う。
- 能城修一・鈴木三男。1989。野川中州北遺跡出土の木材遺体群集。「野川中州北遺跡-自然科学分析編-」, 53-66, 図版12~21。小金井市遺跡調査会。
- 最終氷期の3層の泥炭層の木材化石群の樹種同定。第I, 第III泥炭層ではトネリコ属とコナラ属コナラ節が優占し, 第II泥炭層ではトウヒ属とモミ属が優占する。
- 布目順郎。1989。金沢市米泉出土のアンギン様編布No.1について。「金沢市米泉遺跡」, 207-214。石川県立埋蔵文化財センター。
- 金沢市米泉遺跡の縄文時代後期から産出したアンギン様編布No.1はアカソと見られる。日本の他の遺跡から産出したアンギン様編布についてもまとめている。SEM写真あり。
- 布目順郎。1989。金沢市米泉遺跡出土のアンギン様編布No.2について。「金沢市米泉遺跡」, 215-218。石川県立埋蔵文化財センター。
- 縄文時代晩期から産出したアンギン様編布No.2も, No.1と同様にアカソを原料としている。
- 小笠原忠久。1989。南芽部町で検出された縄文期のアワ, ヒエ。PROJECT SEEDS NEWS (北大文学部吉崎研発行), No.1:4-5。
- 北海道渡島半島の縄文時代中期後半~終末から産出したアワ, ヒエの報告。縄文時代前・中期の膨大な土器, 石皿, 磨石, 磨製石斧が物語る安定した文化は, アワ, ヒエ, ソバなどの雑穀を中心とした初源的農耕により育首されるものであろうと論じている。
- 小椋純一。1989。絵画資料の考察からみた文化年間における京都周辺山地の植生。造園雑誌, Vol.52, No.5:37-42。
- 文化年間(A.D.1804~181?)に描かれた風景画の山地の輪郭の形状の検討による過去の植生景観の考察。絵画の写実性を検討し, 高木の森林のない相当低い植生の部分が広く見られたことを示唆する。
- 大森博雄・柳町 治。1989。北海道におけるハイマツ帯下限およびダケカンバ帯上限, 下限の温度領域。地学雑誌, 98(1):1-18。
- 垂直植生帯の変遷から過去の気温変化を推定する前提となる「植生帯は特定の温度領域に対応して成立している」を検討する。植生帯限界の温度条件の分布の散らばりの大きさが山頂からの比高, 海拔高度の分布の散らばりに比べて小さいことから, 垂直植生帯の分布高度は大局的に気温条件によって規定されているとした。
- 沖津 進。1989。ハイマツ帯下限の気温条件についての解釈: 大森・柳町論文に対するコメント。地学雑誌, 98(2):88-90。
- 大森・柳町論文(地学雑誌, 98(1):1-18, 1989.)に対するコメント。気温条件的には森林帯の成立が期待される領域でハイマツ帯が分布することから, ハイマツ帯の成立機構, すなわち, 森林の排除

機構の主要な部分が非気温的条件に由来しているとし、そこに焦点をあてることこそ重要だと指摘する。

大西都夫・原田吉樹・渡辺正巳．1989．松江市，西川津遺跡の花粉分析．山陰地域研究（自然環境），5:45-54．

完新世の花粉分析結果．

尾上 亨．1989．栃木県塩原産更新世植物群による古環境解析．地質調査所報告，No.269:1-207．

従来更新世前期の水期に形成されたとする考えがあった塩原層群から産する塩原化石植物群の再検討．大型化石（葉・果実・花など）を詳細に記載し、それと花粉のデータから化石堆積当時の気候・環境を推定し、間氷期に形成されたとする．また、その年代はK-Ar法年代測定値から約30万年と推定される．

尾上 亨・加藤信夫．1989．栃木県塩原産植物化石（木の葉石）の収蔵・展示方法．博物館学雑誌，24(17):9-19．

約30万年前と推定される塩原産化石植物のリストが提示され、木の葉化石園から産出した植物化石は今後全種類同園に登録保管されることになったこと、および地質調査所に保管されている重複標本の保管システムについて説明している．

Ooi, N. & Tsuji, S. 1989. Palynological study of the peat sediments around the Last Glacial Maximum at Hikone, the East Shore of Lake Biwa, Japan. *J. Phytogeogr. & Taxon.*, 27(1): 37-42.

琵琶湖東岸彦根の最終氷期最盛期の始良Tn火山灰を挟む泥炭堆積物の花粉分析から当時の植生をマツ属単維管束亜属・ツガ属などの針葉樹とコナラ亜属・カバノキ属・ニレ属などの落葉広葉樹の混交林とした．始良Tn火山灰降灰の影響についても議論する．

大迫靖雄．1989．下堀切遺跡出土木製品について．「下堀切遺跡Ⅱ－熊本県八代市豊原下町所在の遺跡調査5」，44-50．八代市教育委員会．

弥生時代後期の鉄斧の柄・鋳状木製品・建築部材・流木など8点の樹種同定．サカキとアカガシ亜属が各2点，センダン・ハイノキ・サクラ類の樹皮各1点を同定する．

大澤 進．1989．神奈川県川崎市多摩区宿河原産Davidiaの種子化石．平岡環境科学研究所報告，2:97-110．

上総層群飯室層の泥炭質シルトから産出したDavidia化石を現生種および日本における化石記録と比較する．

バリノ・サーヴェイ株式会社．1989．野川中州北遺跡植物化石層の堆積環境と植生．「野川中州北遺跡－自然科学分析編－」，69-94．小金井市遺跡調査会．

東京都小金井市の野川中州北遺跡の河間泥炭層に類似する植物化石層の年代・層序をテフラ分析・放射性炭素年代測定によって明らかにし、珪藻分析・花粉分析を行う．33000年前，20000年前，15000～13000年前，13000～12000年前の植物化石層の花粉分析結果をこれまでの関東地方の分析結果と比較、議論する．

Sakaguchi, Y. 1989. Some pollen records from Hokkaido and Sakhalin. *Bull. Dept. Geography Univ. Tokyo*, No.21:1-17.

北海道黒松内低地歌才から得られた940cmのコアとサハリンの3地点の花粉分析．放射性炭素年代で約24000年前以降の歌才の試料を中心に気候変動を議論する．ブナの渡島半島への到着、コケスギランの出現についても議論する．

佐瀬 隆．1989．黒色腐植層（黒土層）の生成に関する覚書．（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要，No.9:49-66．

黒色腐植層・ローム層の植物珪酸体分析の研究例を紹介し、温暖湿潤気候条件下では、人間活動とそれによって維持される草原植生が黒色腐植層の生成に深く関わること、褐色風化火山灰層（ローム層）は、テフラの堆積とその風化が平行して進む過程で形成され、古土壌A層の性格を有することを

示唆する。

佐藤和利. 1989. オホーツク文化期の竪穴住居跡に伴った植物性食料. PROJECT SEEDS NEWS (北大文学部吉崎研発行), No.2:4.

北海道紋別郡オホーツク文化期の遺跡より152点の炭化エゾエンゴサク塊茎が産出。穿孔があり、紐に通して数珠状のものを作り保存していたと推定。

佐藤敏也. 1989. チマキ状炭化米の米粒解析. 石川県立埋蔵文化財センター年報, No.9:63-72.

首題の杉谷チャノバタケ遺跡から出土したチマキ状炭化米塊から脱粒した米粒50粒の形態の報告。

島地 謙. 1989. 小犬丸遺跡出土木器の樹種. 「龍野市小犬丸遺跡Ⅱ, 県道竜野相生線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(兵庫県文化財調査報告書第66冊)」, 79-87. 兵庫県教育委員会。

龍野市小犬丸遺跡の8~11世紀の遺構から出土した木器50点の樹種同定. ヒノキ(30点)が最も多く、スギがこれに次ぐ。そのほかツガ・コウヤマキ・ケヤキ・サカキ・ヒサカキ・イスノキ・アカメガシワだった。

島倉巳三郎. 1989. 5号墳出土の木炭について. 「四ツ辻古墳群-兵庫県立播磨中央公園造成に係わる調査-(加東郡埋蔵文化財調査報告書8)」, 18. 加東郡教育委員会。

兵庫県加東郡龍野町四ツ辻5号墳出土の木炭24点の樹種はすべてコナラである。

島倉巳三郎. 1989. 中尾城跡から出土した炭化材. 「中尾城跡-近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅺ-(兵庫県文化財調査報告書第67冊)」, 33-35, 図版1~3. 兵庫県教育委員会。

三田市下相野, 中尾城跡(戦国時代中から後期; 1500-1570年頃)から出土した植物性炭化物の同定. マツ(約40%)とスギ(約25%)が主である。このほかモミ・コナラ・カシ・クリ・サクラ・カツラ?・タケ類がある。マツ材の板片と戸板の燻止めの鉄製品が出土することから、板壁の建物が復原される。

島倉巳三郎. 1989. 石合前遺跡から出土した木炭の樹種. 「石合前・小家場遺跡(福島市埋蔵文化財報告書第30集)」, 103-106. 福島市教育委員会・福島市振興公社。

平安時代の土坑・鍛冶跡・炉跡の木炭40点の樹種同定. クヌギがほとんどでクリ・ケヤキ・カエデ類?がともなう。

設楽博己・外山秀一・山下孝司. 1989. 山梨県中道遺跡出土の粉痕土器. 考古学ジャーナル, 27-30.

山梨県韭崎市の縄文時代晩期の粉痕土器の胎土からイネのプラント・オパールが産出した。これをめぐる多様な解釈の可能性について議論している。

須川豊伸. 1989. 一号墳墳丘下の炭化材. 「常陸公事塚古墳群」, 89-91. 茨木県行方郡麻生町教育委員会。

炭化材12点の樹種同定。

鈴木敬治・相馬寛吉・香内 修. 1989. 会津盆地西縁地域の更新世段丘構成層と植物化石群集. 福島大学理科報告, No.44:23-30.

段丘構成層長井Ⅰ層の層序と層相・放射性炭素年代・植物化石群集(大型植物化石・花粉化石)から、長井Ⅰ層は最終間氷期に形成された可能性が高く、温帯性の落葉広葉樹を主とする森林が周囲に分布していた。長井Ⅱ層基底部の泥炭質泥層は、植物化石群集から、マツ科やスギなどの針葉樹と落葉広葉樹が混交する森林が復原され、層的位置と放射性炭素年代を考慮すると最終間氷期末か最終氷期前半のある時期の堆積層と考えられる。

鈴木敬治・相馬寛吉・楡井良政. 1989. 会津盆地東縁の深沢層と植物化石群集. 福島大学理科報告, No.44:13-21.

深沢層は、段丘面・層相・放射性炭素年代値・同層下部の植物化石群集(大型植物化石・花粉化石)から、最終氷期中頃のやや温暖な時期から最終氷期後半のいくらか寒冷な時期にかけての堆積層である。森林は暖~温帯性の常緑低木を混じえる温帯性の落葉広葉樹または針葉樹の優占する森林からマツ科に属する針葉樹やカバノキ属・ハシバミ属などの落葉広葉樹が優占する森林へと変化した。この変化は、より寒冷乾燥化する気候変化に対応したものと考えられ、猪苗代湖北西縁の赤井谷地層

・法正尻層のなかの変化にも対応する。

鈴木敬治・竹内貞子。1989。中～後期更新世における古植物相—東北地方を中心として—。第四紀研究, 28(4):303-316。

東北地方南部の太平洋沿岸域・阿武隈川流域・猪苗代盆地・会津盆地の植物化石群集を層位的に位置付け化石群集帯を設定する。さらに化石群集の分類群組成を温帯性の落葉広葉樹・針葉樹からなるA型から、寒冷地性の針葉樹・落葉広葉樹を主とするD型までに区分する。分類群の層位分布・旧石器の包含層との関係にも論及する。

鈴木三男・能城修一。1989。1988年度に依頼をうけた木製品の樹種同定結果。石川県立埋蔵文化財センター年報, No.9:73-83。

12遺跡から出土した総数44点の木製品の報告。

鈴木三男・能城修一。1989。水白モンシヨ遺跡出土木製品の樹種。「石川県鹿島郡鹿島町水白モンシヨ遺跡」, 102-113, 図版54~59。石川県立埋蔵文化財センター。

水白モンシヨ遺跡の12世紀から13世紀の木製品153点と、久江サザミヤシキ遺跡の10世紀から12世紀後半の木製品13点の樹種同定。スギとクリが多く、ウツギ、ケヤキ、カエデ属などの落葉広葉樹がこれに次ぐ。

鈴木三男・能城修一。1989。木材の樹種。「富沢・泉崎浦・山口遺跡」, 64-65, 写真69。仙台市教育委員会。

仙台市の富沢遺跡第43次発掘で出土した最終氷期の木材化石10点の樹種。ハンノキ属ハンノキ節が多い。

Takahara, H., Yamaguchi, H. & Takeoka, M. 1989. Forest changes since the Late Glacial Period in the Hira Mountains of the Kinki Region, Japan. *J. Jpn. For. Soc.*, 71(6):223-231.

琵琶湖西方、比良山地の八雲ヶ原湿原堆積物の花粉分析を行い、近隣の3湿原の花粉分析結果と比較し、晩氷期以降の森林変遷を議論する。15000年前以降の晩氷期にはモミ属・ツガ属・トウヒ属・マツ属とシラカンバ属からなる森林だった。後氷期には、比良山地の西側では1500年前まで落葉広葉樹林、東側ではブナ林から6000年前にスギ林に変わる。1500~1000年前以降には低山地にアカマツが分布域を拡大する。

外山秀一。1989。遺跡の立地環境の復原—滋賀、比留田法田遺跡・湯之部遺跡を例に—。帝京大学山梨文化財研究所研究報告, 1:161-177。

地形・地質・土壌調査による地形分析・花粉分析・プラントオバール分析を用いた、遺跡の立地環境の復原。滋賀県野洲川下流域に位置する比留田法田遺跡(古墳時代後期~奈良時代後半)と湯之部遺跡(弥生中期以降)の花粉分析から常緑広葉樹やスギ林が優占する植生と湿潤温暖な気候を復原する。また、花粉分析・プラントオバール分析から両遺跡の土地条件をそれぞれ推定する。

外山秀一。1989。光相寺遺跡における花粉分析ならびにプラント・オバール分析。「昭和63年度中主町内遺跡分布調査(II)概要報告書(中主町文化財調査報告書第19集)」, 30-40。中主町教育委員会。

滋賀県旧野洲川右岸の歴史時代を中心とする分析。全般的にはアカガシ垂属やスギ属、シイノキ属・マテバシイ属、コナラ垂属に代表される。イネ、アブラナ科、ハンノキの増加時期に注目し畦畔林としてのハンノキの植林を論じている

外山秀一。1989。高松平野におけるプラント・オバール分析その2—昭和63年度第I調査区—。「弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概報II, 弘福寺領讃岐国山田郡田岡関係遺跡発掘調査事業に伴う調査概要」, 99-111, 図版16。高松市教育委員会。

地表下200cmまでの分析。プラントオバール群集帯を15帯設定。試料採取地点の環境変遷とあわせて考察する。多くの層準で稲作の可能性が示唆された。

外山秀一。1989。まとめ—光相寺遺跡の環境変遷—。「昭和63年度中主町内遺跡分布調査(II)概要報告書(中主町文化財調査報告書第19集)」, 41-44。中主町教育委員会。

滋賀県旧野洲川右岸の歴史時代を中心とする遺跡で、試掘調査、地形環境分析、花粉分析、プラン

- ト・オバール分析の結果を総合的に議論し、三者の結果がほぼ一致することを論じている。
- 楳坂恭代．1989．浮遊選別装置の紹介．PROJECT SEEDS NEWS（北大文学部吉崎研発行），No.2:14．
- 10リットルの堆積物を、一人で作業でき、車載可能な装置で、バケツによる方法の3倍から5倍効率的である。
- 辻 誠一郎．1989．植物と気候．「弥生文化の研究1 弥生人とその環境」，160-173．雄山閣．
- 縄文海進以降の環境変動史、植生史を関東地方の遺跡発掘で得られたデータをもとにして解説する．縄文中期初頭および縄文晩期終末期から弥生時代初頭にかけて浅谷形成・堆積環境の急変が見られる．弥生時代以降の植生は新しいほうの環境の急変を契機として変化したと考えられ、同時に稲作農耕をはじめとする植生と人間の交渉の程度の急激な高まりによって人為的な干渉色の強いものへと変貌していった．
- 辻 誠一郎．1989．開析谷の遺跡とそれをとりまく古環境復原：関東平野中央部の川口市赤山陣屋跡遺跡における完新世の古環境．第四紀研究，27(4):331-356．
- 川口市赤山陣屋跡遺跡の考古学的発掘、地質学的研究と花粉化石・大型植物化石・木材化石を含む古植物学的研究に基づいて、8000年以降の環境変動史上の6つの時期、およびその時期を画する5つの「画期」E1～5を設定した．第Ⅰ・Ⅱ期は8000～6500年前と6500～5300年前の縄文早・前期で、台地から斜面にかけては暖温帯落葉広葉樹林が谷内には草本群落があった．第Ⅲ期は5300～4000年前の縄文前期末から中期で、谷内でのハンノキ湿地林の成立と台地・斜面でのエノキ属・ムクノキ属の増加で区分される．第Ⅳ期は4000～2200年前の縄文後・晩期で、谷内のハンノキ林にヤチダモが侵入し、スギ・ヒノキ類やアカガシ亜属が急速に分布拡大する．第Ⅴ期は2200～500年前の弥生時代以降中世、第Ⅵ期は中世以降に相当し、植生は人間の干渉色の強いものとなる．
- 辻 誠一郎・垣内正久・木越邦彦・小杉正人・南木睦彦・能城修一・小倉順子・坂上寛一・杉山真二・鈴木正章・鈴木三男．1989．縄文時代の古地理と古環境．「お伊勢山遺跡の調査：第3部縄文時代」，3-58．早稲田大学．
- 埼玉県所沢お伊勢山遺跡における、新时期ローム層上部、お伊勢山層最下部・下部層の3風成層、および宮ノ前層最下部・下部層の2水成層の地質層序・編年の詳細と、化学・土壌学・古植物学（花粉・大型植物化石・木材化石・植物珪酸体）などの主に第四紀古環境論の立場からの検討結果の記載と、古地理・古環境についての考察を行う．
- 辻 誠一郎・小山修司・小杉正人・鈴木 茂・南木睦彦・能城修一・鈴木三男・杉山真二．1989．松が丘遺跡の古環境復元．「松が丘遺跡発掘調査報告書」，151-239．中野区教育委員会・中野区松が丘遺跡調査会．
- 旧石器時代の植物化石包含層と縄文時代の考古学的遺物包含層の層序的位置付け、両層に包含される植物化石群集（花粉・大型植物・木材・植物珪酸体）にもとづく古植生の復原と堆積物の諸性質・珪藻化石群集に基づく堆積環境の復原、それらを総合した環境変遷の解明を目的とする．
- 上野秀一．1989．札幌市K135遺跡4丁目地点出土のクリについて．PROJECT SEEDS NEWS（北大文学部吉崎研発行），No.2:3．
- 続縄文後期初頭（3世紀末から4世紀）の炭化したクリ、オニグルミ、ドングリが産出．クリ子葉の大半は穿孔があり、果皮がついたままヒモを通して乾かしていたのではないかと推定している．類例も紹介している．
- 上野秀一．1989．発掘調査にフローテーション法を導入してみた．PROJECT SEEDS NEWS（北大文学部吉崎研発行），No.2:15．
- フローテーション法の有効性と、実施の面からみた問題点について述べている．
- 上野寛一・佐藤幾子．1989．北海道恵庭市柏木川11遺跡における調査．PROJECT SEEDS NEWS（北大文学部吉崎研発行），No.2:8．
- 擦文時代の調査中の遺跡の紹介．肉眼でアワ、キビが確認されている．
- 山田悟郎．1989．K441遺跡北34条地点の古植生について．「K441遺跡北34条地点（札幌市文化財調査報

告書XXXVII)」、81-88, 164. 札幌市教育委員会。

撥文時代の遺物包含層を含む沖積氾濫原堆積物の花粉分析。遺跡周辺の植生と栽培植物について議論する。

山田悟郎. 1989. ビット9, 12から検出された花粉・孢子について。「深川市納内3遺跡(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第60集)」、159-162. 財団法人北海道埋蔵文化財センター。

縄文時代中期頃のビットの堆積物の花粉分析。花粉組成からシナノキ・ミズナラ林の存在とビットが林の開けた場所にあったことを示唆する。フローテーション法による大型植物遺体との比較も行う。

山田悟郎. 1989. 旧河道跡の埋積土から産出した花粉・孢子について。「深川市納内6丁目付近遺跡(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第55集)」、159-162. 財団法人北海道埋蔵文化財センター。

縄文時代早期の遺物包含層を含む泥炭, 泥炭質土, 腐植土の花粉分析。縄文時代早期の水域周囲にはオニグルミが主である落葉広葉樹林が存在した。植物遺体をふくめて, 植物利用について議論する。

山田悟郎. 1989. 産出した花粉・孢子と植物遺体について。「柏原4遺跡(苫小牧市字柏原市道ニナルカ遠浅線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)」、81-86, 148. 苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター。

縄文時代の遺跡から産出したオニグルミ内果皮片・コナラ亜属(ミズナラ)堅果および堅果皮・キハダ・ブドウ属。また, 縄文時代晩期の遺物包含層の花粉分析を行い, ミズナラ林を伐採して遺跡をつくったとする。

山田悟郎. 1989. 縄文時代の遺跡から出土したクリ。PROJECT SEEDS NEWS(北大文学部吉崎研発行), No.2:9-13.

北海道の縄文時代のクリの産出した10例を紹介し, 本州のクリの報告も概観している。北海道の遺跡から産出するクリは, 自生していたというより, 人間により持ち込まれ人間の影響下で分布域を拡大したとする方が考えやすいと述べている。

山田悟郎・椿坂恭代. 1989. 札前遺跡から産出した栽培植物について。「札前II(小規模治山事業急傾斜地崩壊防止工事に伴う緊急発掘調査報告書)」、33-38, 53. 北海道松前郡松前町教育委員会。

撥文時代の住居址および焼土から出土した大型植物遺体。栽培種ではコメ・オオムギ・コムギ・キビ・モロコシ, 野生種ではイガホウズキ属・マタタビ属・アカザ属・ブドウ属・ウルシ属・クルミが産出。栽培植物に関しては, 北海道の他の遺跡の結果と比較しながら議論を展開する。

山田悟郎・椿坂恭代. 1989. オホーツク文化の遺跡にともなった雑穀。PROJECT SEEDS NEWS(北大文学部吉崎研発行), No.1:3.

網走市の堅六住居址からオオムギ, アワ, キビを報告。オホーツク文化期の遺跡からははじめての雑穀の報告である。

山口浩司・高原 光・竹岡政治. 1989. 約1000年前以降の琵琶湖北西部低山地における森林変遷。京都府立大学農学部演習林報告, No.33:1-6.

琵琶湖北西部低山地の平池湿原の花粉分析を行い, 京都府芦生の長治谷湿原・琵琶湖北方の西浅井湿原の結果と比較する。完新世後半の900年前にスギの優勢な森林が伐採などの人為により減少し, その後先駆樹種であるアカマツが分布域を拡大した。

八幡正弘・五十嵐八枝子・P. Gautam・和田信彦. 1989. 西北海道洞爺湖東方の鮮新-更新統について-堆積相・花粉層序・古地磁気層序-。地球科学, 43:261-276.

更新統では湖沼性堆積物からなる徳舜暫粘土層の花粉分析が行われている。

米林 伸. 1989. 花粉分析からみた駒止湿原周辺の植生変遷。「国指定天然記念物駒止湿原保存対策調査報告書(田島町文化財調査報告書第5集)」、72-79. 福島県田島町教育委員会。

福島県北部駒止湿原の大谷地と水無谷地のボーリング試料の花粉分析結果を既発表の他の地点と比

較することにより復原する。更新世末期には広域的にはダケカンバを混じえる針葉樹林で、局地的にはブナを多く含む。完新世の温暖期以降は広域的にブナ優占林で覆われ、局地的にミズナラあるいはキタゴヨウの優勢な林分が存在した。湿原植生は更新世末期のカヤツリグサ科植物からなる群落に始まったが、完新世には分析地点付近の地下水位の変化によるとみられる様々なタイプの群落に変化した。

米林 伸. 1989. 花粉分析による復元植生の広がり—駒止大谷地湿原（福島県）の例—. 第四紀研究, 28(2):103-109.

福島県北部駒止大谷地湿原のボーリング試料の花粉分析結果を同湿原の五十嵐(1971)・Jimbo & Shioda(1980)の花粉分析と比較することにより、地域的な広がりを考慮した植生復原を行う。完新世の温暖期以降、この地域には広域的にブナでおおわれていたが、局地的にはミズナラ・キタゴヨウの優勢な林分が存在していた。分析地点の局地的な湿原植生の変遷も議論する。

吉川純子. 1989. 大型植物遺体。「練馬区弁天池低湿地遺跡の調査」, 83-102, 図版46~50. 東京住宅局・練馬区遺跡調査会.

平面的な化石の分布も検討している。縄文時代後期には湿地にはハンノキなど、湿地にいたる斜面にはオニグルミ、トチノキ、ミズキなど、周縁にはコナラ、ケヤキなどが生育していた。中世、18世紀以降の試料も分析している。

吉川昌伸. 1989. 縄文時代後期以降の花粉化石。「練馬区弁天池低湿地遺跡の調査」, 60-82, 図版3~17. 東京都住宅局・練馬区遺跡調査会.

コナラ亜属が卓越し多様な落葉樹や常緑樹が伴う時期（縄文時代後期）、スギ林が拡大した時期（縄文時代後期末~中世ないし近世初頭）、ニヨウマツ亜属の拡大期（中世~近世初頭）に時期区分して論じている。形態記載もある。

吉川昌伸・能城修一・鈴木三男・吉川純子・藤根 久・杉山真二・小野澤宏之. 1989. 縄文時代後期以降の古環境。「練馬区弁天池低湿地遺跡の調査」, 160-164. 東京都住宅局・練馬区遺跡調査会.

地質層序、テフラ分析、各種の植物化石分析のデータを総合し、縄文時代後期以降の堆積環境と森林植生の変遷について議論している。

吉崎昌一. 1989. K441遺跡北33条地点出土の植物種子。「K441遺跡北33条地点N12遺跡（札幌市文化財調査報告書XXXVI）」, 52-57, 143. 札幌市教育委員会.

縄文時代中期および後期の3軒の住居址からの植物種子。アワ、ヒエ、キビ、コムギを含んでいる。美しいSEM写真を掲載。

吉崎昌一. 1989. K441遺跡北34条地点出土の植物種子。「K441遺跡北34条地点（札幌市文化財調査報告書XXXVII）」, 70-79, 161-163. 札幌市教育委員会.

縄文文化後期の炭化物集中部などから採取。栽培植物であるシソ属、ソバ、アワ、キビ、ヒエ、コムギなどを含む。美しいSEM写真あり。

1985~8補遺

竹内貞子. 1985. 花粉分析。「山田上ノ台遺跡—昭和59年度発掘調査報告書—（仙台市文化財調査報告書第77集）」, 55-64.

山田上ノ台遺跡の遺跡壁面と下位の段丘礫層および北前遺跡の基盤の段丘礫層の花粉分析。花粉分析の結果をこれまでの仙台市街地の段丘堆積物の花粉分析と照らしあわせて年代を議論する。

蟹江康光・松島義章・鹿島 薫・大森雄治・小島久美子. 1985. 横須賀市役所地下における完新統の古生物と年代。横須賀市自然博物館研究報告, No.33:37-44.

海面下25~24mの砂礫堆積物中から産出したケヤキの材3点, 海面下25~17.5mの堆積物の花粉分析3点(バリノ・サーヴェイ)の報告.

安田喜憲. 1985. 里山と森の民の自然観. 「伝える(1)混沌のなかから」(姫田忠義編), 205-231. 未来社.

Kawamuro, K. & Torii, A. 1986. Past vegetation on volcanic ash forest soil I. Pollen analysis of the black soils, brown forest soils and podzolic soil in Hakkoda mountain. Bull. For. & For. Prod. Res. Inst. (林試研報), No. 337: 69-89, pl. 1-4.

東北地方八甲田山の高田大岳南麓緩斜面に分布する黒色土・褐色森林土・ポドゾル・泥炭土の十和田a火山灰, 中瓶浮石の上に発達するA層および埋没A層の花粉分析結果を比較検討した. 土壌の過去4000年の植被を推定した結果, 褐色森林土・ポドゾルは一貫してブナ林またはトチノキ林であったが, 黒色土は疎林もしくは草原だったことがわかった.

河室公康・鳥居厚志. 1986. 長野県黒姫山に分布する火山灰由来の黒色土と褐色森林土の成因的特徴—とくに過去の植被の違いについて—. 第四紀研究, 25(2): 81-98.

同一火山山麓に分布し同一地形, 同一母材の条件下においても草原では黒色土が生成され森林では褐色森林土が生成されることが, 植物珪酸体分析及花粉分析結果から推定された両土壌の過去の植被からあきらかである.

内山 隆. 1987. 中間温帯林域における花粉分析学的研究 その1 東北地方南東部. 日本花粉学会会誌, 33(2): 111-117.

東北地方太平洋岸, 福島県平・双葉・原町・磯部・新地の5地点でのヒラー型ハンドボーラーにより採取された堆積物の花粉分析. 放射性炭素年代によって年代を推定し, 中村・塚田の花粉帯と対比し, 原植生を推定する.

三好教夫. 1988. 人類文明と攪乱の地史. 「日本の植生 侵略と攪乱の生態学」(矢野悟道編), 203-217. 東海大学出版.

過去における自然植生の攪乱や農耕の開始期に関する花粉分析による海外と日本の研究を紹介する. とくに, マツ属花粉が語る自然植生の破壊, 水田稲作の拡大と平地林の破壊を中心にまとめている.

三好教夫・多田由美子. 1988. 原遺跡(岡山市御津町)と津島江道遺跡(岡山市)の花粉分析. 「鎌木義昌先生古希記念論集 考古学と関連科学」, 437-444, 図版1~2. 鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会.

原遺跡の縄文時代後期~晩期の泥炭層, 弥生時代中期~後期の水田耕土ないしは床土, 13世紀~明治時代の水田跡の花粉分析から, 中世中期までは照葉樹林に囲まれていたがその後アカマツ二次林が増加するとした. また, 津島江道遺跡の縄文時代晩期以降の堆積物では花粉の保存性とpH・灼熱損失量との関係を議論する.

島地 謙・林 昭三. 1988. 対中遺跡出土木器の樹種. 「対中(兵庫県文化財調査報告書第60冊)」, 149-150, 図版45-56. 兵庫県教育委員会.

三田市対中町対中遺跡の平安時代後期遺構出土の木器12点の樹種同定. モミ・コウヤマキ・ヒノキ・クヌギ・アカガシ亜属・ケヤキに同定される.

高野武男・長谷川 正・米山正次・藤田 剛・黒田一武. 1988. 頸城村の地形と地質. 「頸城村史」, 1-51. 新潟県中頸城郡頸城村・頸城村史編さん委員会.

第四節, 花粉化石と珪藻化石の語るものの項で, 北方の古保倉川の流路を埋めた堆積物(放射性炭素年代4000年前後)と完新世高田層(6130 years B.P. と 4580 years B.P.の年代値)の花粉分析を紹介する. 調査の際に産出した大型植物化石も同定する. 図版あり.